# 共立女子大学　国際学部　カリキュラムツリー

## ディプロマ・ポリシー

| DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 幅広い教養<br>世界のつながりや諸課題を多角的に捉えるための幅広い教養を身につけている。 | 異文化理解（表現・感性）<br>自他の文化についての理解を深め、特徴を把握するとともに、その価値を認め、適切な形で尊重することができる。 | 多様性理解<br>社会に対して開かれた関心と態度を身につけ、その多様性を学際的な観点から理解し、また共感することができる。 | 言語運用能力<br>異文化コミュニケーションを可能にし、国際社会で活躍するための実践的な言語運用能力を身につけている。 | 社会の仕組みの理解（市民性・公共性）<br>社会人・市民として必要とされる現代社会の基本的な制度や仕組みを理解し、現代社会の現状を把握できる。 | 問題発見・分析・解決<br>国際的な問題に関する新たな課題を自ら見つけ出し、批判的に分析、言語化し、解決を提案、論理的に説明する能力を身につけている。 | リーダーシップ（相互協調性）<br>国際社会で主体的に活動するための目標を明確に掲げ共有した上で、牽引して行動し、多様な国際社会構成員との相互支援関係を作ることで、目標達成に近づいていくことができる。 |

## 専門発展科目

### CP2-3

3–4年次配当科目
「エリア」、「コミュニケーション」、「グローバル」の3つの分野に、学びを深めていくための専門科目を配置する。専門発展科目では、学生の学修思考・関心・意欲に応じて、当該分野の科目を中心に履修しつつ、適切な履修指導のもと、他の分野の科目も履修することで、包括的な視点に基づく分野横断的な能力を選択した分野における深い知識や応用力を身に付ける。
　また、これまで学修した知識・技能等を活かしつつ、適切な指導により、自ら設定したテーマを研究したり、グループディスカッション等を通じて協働力を身に付けたりするための「専門演習」を配置する。
　さらに、4年間の集大成として研究成果を論文にまとめ、成果発表までを行う「卒業論文」を配置する。そのため、専門発展科目のうち、「専門演習」、「卒研演習」、「卒業論文」は必修科目とする。なお、GSEプログラムにおいては、ゼミナール担当教員の指導の下、卒業論文は英語で執筆するものとする。
　外国語科目については、専修外国語に関してより高度な言語運用能力を習得するために、（最）上級科目を配置する。

- 卒業研究
- 国際卒研演習

| DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国際事情・フィールドワーク<br>国際特論E<br>Comparative Writings on Japan<br>日本語学各論C<br>日本語学各論D<br>コミュニケーション論E<br>コミュニケーション論F<br>コミュニケーション論G<br>世界の現代思想A<br>世界の現代思想C<br>映像文化論 | 国際特論A<br>日本の政治経済<br>アジアの政治経済<br>アジア地域論A<br>アジア地域論B<br>アジア地域論C<br>ヨーロッパの政治経済<br>ヨーロッパ地域論A<br>ヨーロッパ地域論B<br>ヨーロッパ地域論C<br>ヨーロッパ地域論D<br>ヨーロッパ地域論E<br>アメリカの政治経済<br>アメリカ地域論A<br>アメリカ地域論B<br>Topics in American Studies<br>Topics in British Studies | 国際英語F<br>国際英語G<br>国際英語H<br>国際英語I<br>国際英語J<br>国際英語K<br>国際英語L<br>フランス語特別演習A<br>フランス語特別演習B<br>フランス語特別演習C<br>フランス語特別演習D<br>フランス語特別演習E<br>フランス語特別演習F<br>フランス語特別演習G<br>フランス語特別演習H<br>中国語特別演習A<br>中国語特別演習B<br>中国語特別演習C<br>中国語特別演習D<br>中国語特別演習E<br>中国語特別演習F<br>中国語特別演習G<br>中国語特別演習H<br>Topics in American Studies<br>Topics in British Studies<br>Comparative Writings on Japan<br>International Relations<br>Global Business<br>日本語教育実習 | アジア・太平洋の国際関係 A<br>アジア・太平洋の国際関係 B<br>イスラムと世界 A<br>イスラムと世界 B<br>国際経済学 A<br>国際経済学 B<br>地球環境論<br>政治学<br>国際文化交流論<br>国際文化財保護論 | 国際専門演習<br>国際特論C<br>国際人権論<br>紛争解決論<br>開発経済学 A<br>開発経済学 B<br>国際環境協力論<br>平和構築論 A<br>平和構築論 B<br>International Relations<br>Global Business<br>国際事情・フィールドワーク | 国際専門演習<br>国際事情・フィールドワーク |
| 国際事情・フィールドワーク<br>現代社会と文学 A<br>現代社会と文学 B<br>現代社会と芸術 A<br>現代社会と芸術 B<br>コミュニケーション論 A<br>コミュニケーション論 B<br>コミュニケーション論 C<br>コミュニケーション論 D<br>英語学概論<br>社会言語学<br>対象言語学<br>第2言語習得論<br>現代社会と思想・宗教 A<br>現代社会と思想・宗教 B<br>アジアの文学<br>英語圏の文学<br>ヨーロッパ大陸の文学<br>アメリカの文学<br>表象文化論 A<br>表象文化論 D<br>Comparative Culture | ジェンダーとリーダーシップ<br>現代世界の地誌 A<br>現代世界の地誌 B<br>現代世界の地誌 C<br>日本の社会 A<br>日本の社会 B<br>日本の歴史 A<br>日本の歴史 B<br>アジアの社会 A<br>アジアの社会 B<br>アジアの社会 C<br>アジアの歴史 A<br>アジアの歴史 B<br>ヨーロッパの社会 A<br>ヨーロッパの社会 B<br>ヨーロッパの歴史 A<br>ヨーロッパの歴史 B<br>アメリカの社会 A<br>アメリカの社会 B<br>アメリカの社会 C<br>アメリカの歴史 A<br>アメリカの歴史 B<br>Foundations of Japanese Studies<br>Topics in Japanese Studies<br>Foundations of American Studies<br>Foundations of British Studies<br>国際ジェンダー論 A<br>国際ジェンダー論 B<br>日本語学概論 A<br>日本語学概論 B<br>日本語学各論 A(文字・表記)<br>日本語学各論 B(音声・音韻) | 国際英語C(L&S) I<br>国際英語C(L&S) II<br>国際英語D(R) I<br>国際英語D(R) II<br>国際英語E(W) I<br>国際英語E(W) II<br>英語で読むエリアスタディーズA<br>英語で読むエリアスタディーズB<br>英語で読むコミュニケーションスタディーズA<br>英語で読むコミュニケーションスタディーズB<br>英語で読むグローバルスタディーズA<br>英語で読むグローバルスタディーズB<br>フランス語中級A I<br>フランス語中級A II<br>フランス語中級B I<br>フランス語中級B II<br>中国語中級A I<br>中国語中級A II<br>中国語中級B I<br>中国語中級B II<br>ドイツ語中級 I<br>ドイツ語中級 II<br>イタリア語中級 I<br>イタリア語中級 II<br>日本語A<br>日本語B<br>日本語C<br>日本語D<br>Foundations of Japanese Studies<br>Topics in Japanese Studies<br>Foundations of American Studies<br>Diversity, Inclusion and Leadership<br>Comparative Culture<br>Foundation of Business<br>Communication<br>Topics in Business<br>Communication<br>International Exchange<br>Foundation of Global Issues<br>Topics in Global Issues<br>Sustainable Development<br>Global Leadership<br>日本語教育研究A<br>日本語教育研究B | 国際関係史 A<br>国際関係史 B<br>グローバル経済論 A<br>グローバル経済論 B<br>ヨーロッパと国際関係 A<br>ヨーロッパと国際関係 B<br>アメリカと世界 A<br>アメリカと世界 B<br>国際法 A<br>国際法 B<br>国際組織論<br>地域経済論<br>社会開発論<br>政治学<br>Foundation of Global Issues<br>Topics in Global Issues<br>Sustainable Development<br>Global Leadership | 国際基礎演習 A<br>国際基礎演習 B<br>社会情報分析の基礎<br>政治分析の基礎<br>ミクロ経済学 A<br>ミクロ経済学 B<br>マクロ経済学<br>統計データ分析手法<br>国際協力論<br>国際協力とNPO<br>平和学<br>Global Leadership<br>GSE Intermediate<br>Research Seminar<br>国際事情・フィールドワーク | 国際基礎演習 A<br>国際基礎演習 B<br>ジェンダーとリーダーシップ<br>国際事情・フィールドワーク<br>Diversity, Inclusion, and Leadership<br>Global Leadership<br>GSE Intermediate<br>Research Seminar |

### CP2-2

2年次配当科目
「専門基礎科目」で得た知識・理解をふまえ、「エリア」、「コミュニケーション」、「グローバル」のコース分野につながりつつも、学部の学修の土台となりうる科目を配置する。その一方で、コース選択後の専門的知識とその理解の深化のために、「エリア」、「コミュニケーション」、「グローバル」各分野の専門科目を配置し、選択必修を設定する。また、ゼミとして「国際基礎演習　A, B」を設置し、身につけた知識・理解・技能を能動的かつ共同作業のなかで活用し、それを通して一人ひとりの問題意識・関心の形成を図る。
外国語科目については、技能をさらに高めるために、専修外国語、選択外国語の言語にかんして、上級（英語）、中級（初修外国語）科目を配当する。

## 専門基礎科目

### CP2-1

1年次配当科目
国際学部における学びのあり方やその多様性について、基礎となる知識を身につけ、理解を深めるための科目を「国際学総合」科目群として配置する。前提として「国際学入門」を１年次前期に全学生必修とする。そのうえで、「エリア」、「コミュニケーション」、「グローバル」の各コース分野を学ぶ目的や学問体系を理解するため、それぞれのコース分野、および GSEプログラムの入門科目を配置する。これらの科目の履修によって、コース分野を主体的に選択することが促される一方、学際性を担保するために、希望するコース以外の科目にも一定の選択必修の単位を設定し、多角的な視点の必要性を認識させる。さらに、女性としての学びの観点から、ジェンダー科目を４つ配置し、１科目（2単位）を必修とする。外国語科目については、専修外国語、選択外国語として提供されている言語にかんして、中級（英語）、初級（初修外国語）科目を配置し、異文化やグローバル世界に主体的にかかわるために必要な技能を身につけるための基盤となる科目を配置する。

| DP2 | DP3 | DP4 | DP5 | DP6 | DP7 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国際学入門<br>コミュニケーション論入門 A<br>コミュニケーション論入門 B<br>国際コミュニケーション論入門 A<br>国際コミュニケーション論入門 B<br>Introduction to Communication Studies<br>比較文化論 A<br>比較文化論 B<br>国際事情・フィールドワーク | 国際学入門<br>地域研究入門 A<br>地域研究入門 B<br>地域と歴史入門 A<br>地域と歴史入門 B<br>Introduction to Area Studies<br>ジェンダー論 A<br>ジェンダー論 B<br>ジェンダー論 C<br>ジェンダー論 D | 国際英語A(L&S) I<br>国際英語A(L&S) II<br>国際英語B(W&R) I<br>国際英語B(W&R) II<br>フランス語初級 I<br>フランス語初級 II<br>中国語初級 I<br>中国語初級 II<br>ドイツ語初級 I<br>ドイツ語初級 II<br>イタリア語初級 I<br>イタリア語初級 II<br>日本事情<br>Introduction to Area Studies<br>Introduction to Communication Studies<br>Introduction to Global Studies<br>Introduction to GSE Communication Skills A<br>Topics in GSE Communication Skills B<br>GSE Introductory Research Seminar | 国際学入門<br>国際関係入門 A<br>国際関係入門 B<br>Introduction to Global Studies | 経済分析入門 A<br>経済分析入門 B<br>GSE Introductory Research Seminar<br>国際事情・フィールドワーク | 国際事情・フィールドワーク<br>GSE Introductory Research Seminar |

## 教養教育科目

### CP1

ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

| | |
|---|---|
| 協働とリーダーシップコア | ・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性・コミュニケーション能力やリーダーシップを養うために、「現代社会の諸課題の解決」「課題解決実践演習」「リーダーシップ開発」の　3つの科目群から2単位を選択必修とする。<br>・他者と協働し様々な課題解決を行なう中で、自らの価値観と多様な価値観を調整するために必要なコミュニケーション力やリーダーシップを身に付けることを目指して、　PBL（Project Based Learning）の手法を用いて授業を行う。 |
| 創造とキャリアコア | ・情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる教養・データサイエンス・　AIに関する基礎的な知識や技術を身につけるために、「データサイエンスと　ICTの基礎」を必修科目とする。<br>・語学教育においては、プレイスメントテストの結果を踏まえた習熟度に基づくクラス編成を取り、グローバルな社会生活で必要となる英語コミュニケーション力を身につけるために、「英語コミュニケーション Ⅰ」「英語コミュニケーション Ⅱ」を必修とし、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成し、英語によるコミュニケーション力と　TOEICのスコアアップを目指す。<br>・社会を幅広く俯瞰し必要な教養を身につけるために、「人間を理解するための教養」「社会を理解するための教養」「自然を理解するための教養」「身体と健康を管理するための教養」「キャリアを創造するための教養」より　6単位を選択必修とする。 |
| 自律と努力コア | ・学生生活への適応、ライフプランやキャリアプラン形成のための「ライフプランと自己実現」、そして論理的な考え方や文章作成技術の修得、課題発見、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の修得をはかるとともに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数制で行う「基礎ゼミナール」「課題解決ワークショップ」を必修科目とする。 |

## カリキュラム・ポリシー

| DP1との関連性がとても高い科目 | DP2との関連性がとても高い科目 | DP3との関連性がとても高い科目 | DP4との関連性がとても高い科目 | DP5との関連性がとても高い科目 | DP6との関連性がとても高い科目 | DP7との関連性がとても高い科目 |
|---|---|---|---|---|---|---|

## アドミッション・ポリシー

| AP1-1 | AP1-2 | AP2 | AP3-1 | AP3-2 |
|---|---|---|---|---|
| 【知識・技能】<br>高等学校の教育課程を幅広く修得している。 | 【知識・技能】<br>国際学部で学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識があり、入学後の学修に必要な技能を有している。とくに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎技能を日本語、外国語において身に付けており、また各地域の歴史や文化、社会の仕組みについて、その特性を理解し、数量的な分析を行うための基礎知識を身に付けている。 | 【思考力・判断力・表現力】<br>国際学部での学びを通して、異文化への豊かな感性や多様な価値観、国際交流の場で求められる的確な表現力や判断力を身に付けようとする意欲を有している。 | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】<br>国際的な政治・経済・社会の仕組みや諸地域の文化やその交流・関係に関心を持っている。 | 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】<br>グローバルな課題の解決のために、リーダーシップを発揮して異文化を背景にもつ他者との協働作業に積極的に関わり、その経験を将来のキャリアや社会活動に活かそうとする意欲がある。 |

※各科目は「カリキュラムマップ」でディプロマ・ポリシーとの対応関係が「◎」の科目を記述している。